

まことと会便り

2019/11

皆様、いかがお過ごしでしょうか。

前任職を見送った夏が過ぎました。秋の空はいつもと変わらず、黄金色の日の光で包まれる穏やかな日が続きます。以前にもご紹介しました白井成允先生の詩が身に沁みます。

声は西方より来りて

身を巡り髓に徹る

よろこばしいかな

身は娑婆にありつつも

すでに浄土の光耀をかうむる

あはれあはれ十方の同胞

同じく声を聞いて

みな俱（とも）に一処に会（え）せん

南無阿弥陀仏

（「召喚の声」より抜粋）

陽の光は私が求めずとも明るく温かく照らします。それは誰に対しても等しく照らして隔たりがありません。阿弥陀様のお救いも私が求めずとも私に届いてくださいます。当たり前のように思っているかもしれないですが、私の口から南無阿弥陀仏のお名号が出てくることの不可思議さ、先人の方々から続くご縁の有難さが、そこには確かにあるのです。

行事予定



十二月 四日

ヨガの会

十二月二十日

ヨガの会

令和二年

一月十四日

光圓寺 御正忌法要

講師 住職

一月十七日

ヨガの会

報恩講ありがとうございました

去る十月三十日に光圓寺報恩講が無事に勤まりました。

九月に前任職が亡くなり、「ご法座すぐ前の十月二十六日が四十九日忌でした。前任職は報恩講のお齋をいただいて「光圓寺のお齋がいちばん美味しい」といつも喜んでいましたので、今年も変わらず美味しいお齋を、皆さまと一緒にいただくことができ、しみじみ嬉しくいただきました。

今年のお齋は、南観音中・西地区のみなさまがお接待下さいました。

大人数の準備を手際よくなさって、美味しいお齋を温かくいただくことができました。お世話になり、ありがとうございました。

また来年も皆さまと一緒にできることを楽しみにしております

【報恩講・秋季永代経法要 坊守覚え書】

南無阿弥陀仏・・・報恩行に生きる

世は無常なり。これは誰でも感ずるところのあることでしょう。

では、なぜ変化していくのでしょうか。それは「因―縁―果」と続く

縁起の理の世界だからです。縁起というと「因―果」と思われがちですが、因と果だけなら変化は起こらない。善の因は善の果を出し、その善の果が因となってまた果を出す。善はずつと善を出し続け、悪はずつと悪を出し続けることになる。しかし私たちはそうではない。

善と思っても悪にもなることもあるし、悪と思っても善に転ずることもできる。そこには必ず何かのきっかけが入ってくる。その何かのきっかけが「縁」なのです。

私たちは沢山の命をいただいてやつと生きていくことのできる存在です。そればかりか、同じ人間同士の中でも周囲の人を見ては羨んだり妬んだり、悪口を言ったり嘘をついて騙したり。たとえ行動には出さなくとも心の中では多くの悪行が渦巻きます。このような、善なる存在とはとても言いがたい私たちがどうしてお浄土に、さとりの世界に入ることができるでしょうか。



私たちは自らの業ではとうていお浄土に参ることはできません。しかし、この私の業を転じて参れるようにしてください。それが阿弥陀如来さまのおはたらきなのです。それがどれだけ希有なことか気付けば、そのご恩に感謝しないではいられないでしょう。私たちはお聴聞を通してそれに気付くご縁をいただいているのです。自分の小さな知識や小さな善行にこだわり自力にしがみついたら、大きな阿弥陀さまのおはたらきに気付かず長い時間を空しく過ごすことになりかねない。ただただお任せし、そのご恩に感謝することのできる人にお育ていただくご縁をいま、いただいているのです。